



佐藤 太信 議員
(戸田の会)



福祉と動物愛護の視点に沿った対応を！

動物愛護の推進、多頭飼育問題

Q 昨年、市内において猫の多頭飼育崩壊が発生した。多頭飼育の問題は、動物愛護の観点だけでなく、飼い主の生活困窮や孤立など福祉的課題と深く関係する。多頭飼育問題の早期発見・未然防止に向けた市内連携および今後の取り組みについて、市の対応は。

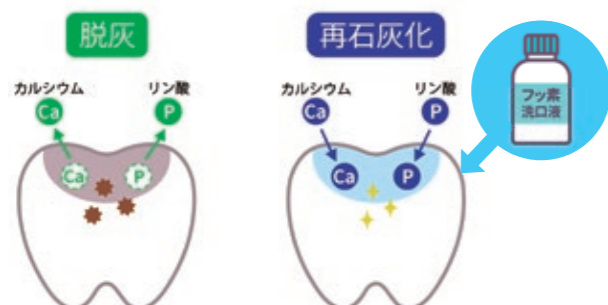
A 市民などからの多頭飼育に関する相談や情報提供などがあつた際には、必要に応じ市内の関係部署と情報共有を図りつつ、県動物指導センターなどと連携し、状況に応じた対応を行う。

虫歯の予防のためフッ化物洗口を

Q 虫歯予防や歯の健康の保持は、口腔内の健康にとどまらず、糖尿病や心疾患などの生活習慣病予防にもつながる。適量のフッ化物を含む洗口液でうがいを行うフッ化物洗口は、歯の再石灰化を促し、歯質を強化することで虫歯の発生を防ぐ。国内外の多くの研究により有効性と安全性が確認されており、国も推進している。フッ化物洗口を活用した虫歯予防の取り組みは。

A 市内の保育園において、フッ化物を用いた1分間の「洗口」を行っている園は民間保育園4園で、いずれも4・5歳児の希望者を対象に実施している。今後、公立保育園での導入に向けて、検討を進める。

一方、市内の小・中学校では、令和5年度に行われた養護教諭対象の研修会で、学校歯科医から学校でのフッ化物洗口の行い方や、他自治体で実施している事例の紹介などがあつた。市内の虫歯保有率の動向を注視しつつ、学校におけるフッ化物洗口の取り組みについて、引き続き研究する。



小沼 さゆり 議員
(戸田の会)



おたふくかぜ予防接種費用の助成を

Q おたふくかぜ予防接種は任意接種であり、費用負担を理由に接種を控える家庭が生じている可能性がある。県内では既に15市町村が助成を行っている。本市の費用助成の導入可能性について市の考えは。

A 任意予防接種であるおたふくかぜワクチンは、接種費用が自己負担であり、各家庭がワクチンの効果や副反応、救済制度の違いなどを踏まえて判断するものである。現在、国においてMMRワクチンの定期予防接種化について審議が継続されている。定期化された場合は、一度の接種で複数の予防効果が得られる利点があることから、今後も国の動向を注視していく考えである。

健診方式の選択制

Q 本市の乳幼児健診は現在、集団健診方式で実施されているが、近隣自治体では個別健診を採用する事例もある。過去の実績と課題を踏まえつつ、対象を限定した選択制導入の可能性について検討を求める。

A 本市の乳幼児健診は、多職種が関わり発育・発達を総合的に確認できることから、すべて集団方式で実施している。迅速な支援や信頼関係の構築につながる点が利点である。一方、保護者の日程調整の負担や専門職の確保が課題である。コロナ禍では一部個別方式を実施し継続性は確保できたが、受診率低下や受入れ体制の構築などの課題もある。選択制導入は慎重に考える必要があるが、一部健診の個別化については他自治体の状況を踏まえ調査・研究していく。



時代とニーズに即した健診体制を



むとう 葉子 議員
(日本共産党戸田市議団)



子供達が健やかに育つような居場所を😊

こどもの居場所と制服のリユース

Q ①子供たちのさまざまな格差を解消するため、子ども食堂や学習支援の拡充、図書館に学習スペースを設けてはどうか②思い切りボールが使える公園を増やす考えは③中学生の制服リユース事業への支援を。

A ①こどもの居場所事業は「戸田市こどもの居場所ネットワーク」を基本とし、各団体をマッチングするなどの間接的な支援をしている。また、ひとり親世帯や生活保護世帯の小中高生に対する学習支援を令和7年度に東部福祉センター、令和8年度に西部福祉センターと広げ、家庭訪問により継続参加へと導く支援を行っていく。中央図書館に115席の学習スペースがあり、座席予約管理システムを導入し利便性が向上した。中央図書館、分館および分室は余剰スペースが無く増設は難しい②ボールが使える広場は、バスケやフットサルができる「青少年の広場」が本町・中町・新曾にある。また、公園でのボール広場については、ボール公園、喜沢2丁目児童遊園地、新田公園に設置済みのほか、令和7年度は番匠免公園、令和8年度は圃中公園に設置予定である③SDGsや家庭の負担軽減になることから、校長会などで周知する。

意見 ①子ども食堂や学習支援の周知は、こどもの居場所ネットワークにおけるSNSだけでなく、チラシやポスターなどでの周知を柔軟に行って欲しい。またネットワーク団体から出された課題は、直接的な支援を②図書館の学習スペースは福祉センターの建替えなどで、スペースの確保を③制服のリユース事業は、本市が行うことも検討して欲しい。



子どもや高齢者が集まる食堂の様子



古屋 としみつ 議員
(政策 TODA)



物価高騰対策は、市民全員に！

物価高騰対策は広く届けることが重要

Q 今回、物価高騰対策としてTODA PAYを活用したが、応募抽選方式とした理由について伺う。

A プレミアム付電子商品券事業は、市内での消費喚起を促進するとともに、購入者が利用予定額に応じて申し込みセット数を選択できるようにしているため。

Q TODA PAYの活用は理解する。しかし、高齢者へのお買物券全員配布、子供へは、児童手当の制度を利用した全員給付と同様、応募抽選方式以外の「広く配布する方式」も考えられたのではないかと。

A 物価高騰の影響を受けている市内事業者を支援する目的もあり、より大きな経済効果が期待できる。

意見 今回の対策は、生活防衛を目的とする対策であると考えている。消費者である市民に対する物価高騰対策であり、この質問の趣旨を理解して欲しい。

戸田市らしい、ねんりんピックへ

Q 会場現地を確認したところ複数の懸念箇所が見受けられる。どのような体制で運営を行うか伺う。

A 維持管理を行っている国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所に対し、補修の申し入れをした。

Q ねんりんピック戸田大会において、戸田市らしい大会を目指し、戸田市生まれ・育ち、NHKラジオ体操で全国的に活躍されている鈴木大輔さんをお招きし、市民の皆様とともにラジオ体操を行い、その様子を全国に向けて発信しては如何か。

A 戸田市らしい大会となるよう詳細な内容やスケジュールなどについては、今後、県と調整する。



会場の整備は大会成功への必須事項